



平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える
神道ジャーナリズム誌

本号の内容 (主張) 安倍政権の終焉を迎えて (木川智) : 1 / 花瑛
塾七月・八月活動報告 : 3 / (連載) 記録沖縄戦⑥ 軍民・日米それ
ぞれの視点から (沖縄戦史研究会「棒兵隊」) : 8 / (連載) 葦津珍
彦と神道ジャーナリズム 「時の流れ」を読み解く 7 (鎌倉佐助) :
15 / 花瑛農園 学生支援と農業体験 体験記 (仲村之菊) : 17 /
編集後記 : 20

1部 1000円
(別途送料160円)

安倍政権の終焉を迎えて

神苑の決意 木川智

〔主張〕 安倍首相が先月二十八日、首相官邸で会見し、辞意を表明した。今後、自党内で総裁選挙がおこなわれ、新総裁が後継首班候補となる。報道によると、自民党は今月十五日をめどに党内で新総裁を選出することであり、今月中には国会内で首班指名選挙がおこなわれ、新内閣が成立することになる。

安倍首相は首相臨時代理を置かず、新たな首班指名まで執務を続けることだが、平成二十四年の第二次安倍政権発足以来七年八カ月の超長期政権が、今まさに終焉を迎えようとしている。

安倍首相は会見において、持病の潰瘍性大腸炎が再発したことを明言した。この病気は第一次政権でも安倍首相が任期途中で辞任する理由ともなっており、難病にも指定されている。幸いにも新薬の効があるようだが、向こう一年程度は投薬を続ける必要があり、そうした健康問題に不安を抱えるなかで、国民の負託に応えることは難しくなると辞意を固めた理由を述べた。

首相の座を降りなければならないほどの健康上の不安があるのならば、率直にお見舞いを申し上げなければならぬ。治療に専念し、一日も早く快復し

ていただきたい。

ひと昔前ならともかく、高齢化社会を迎えている日本において、首相が健康問題を抱えたからといってただちに辞任することもないように思う。むしろ安倍首相は難病当事者として通院加療したり、あるいは一時的に休職し治療に専念することによって健康を快復し、その上で再び職務に復帰するという、今後の日本のあり方を見据えた良き社会的モデルを示すのも一手だとも考えるが、コロナ禍のなかでそれは難しいことかもしれず、いずれにせよ辞任が本人の決断であれば、それを尊重する他ない。